



- 研究テーマ バイロンと公共圏の研究
- 所属職名氏名 英語教育講座 教授 門田 守
- 研究シーズ概要

- 英国における公共圏は1680年から1730年に最盛期を迎えたコーヒーハウスにおいて始まった。これはドイツの哲学者・社会学者であるユルゲン・ハーバーマスの説である。公共圏は最初に文芸的な場で興り、政治的空間に浸透していく。バイロンとの関係で面白いのは、マスメディアの発展と相俟って、公共圏が私的経験を商業利用する空間と化してしまうことだ。バイロンは『懶惰の日々』を非難され、『英国の詩人とスコットランドの批評家』を持って、気に入らぬ文人たちを切りまくった。いわば、18世紀的な議論する資質が詩人バイロンの出発点だった。ところが、大陸旅行を挟んで、彼の詩は私的経験(近親相姦、同性愛等)を語る、親密な自己吐露へと変貌する。公共の場での議論は、居間での私的な語りとなる。大作『ドン・ジュアン』も、結局読者への親密な語りの詩なのだ。バイロンの矛盾する資質—諷刺とロマン性—を説明するために、彼を「コミュニケーション行為」の詩人と規定するべきである。バイロニズムの流行も「コミュニケーション行為」の所産なのだ。